

国際青年環境NGO **A SEED JAPAN**

2012 年度 年次報告書



A SEED JAPAN

Action for Solidarity, Equality, Environment, and Development

青年による環境と開発と協力と平等のための国際行動

A SEED JAPAN は、1991 年 10 月に設立された日本の青年による国際環境 NGO（非政府・非営利組織）です。

1992 年 6 月、ブラジルで開催された「地球サミット（国連環境開発会議）」へ青年の声をとどけるため、世界約 50 ヶ国 70 団体が参加して「A SEED 国際キャンペーン」の日本の窓口となったのが始まりでした。

私たちは国境を越えた環境問題とそこに含まれる社会的な不公正に注目し、より持続可能で公正な社会を目指しています。そのために現在の大量生産・大量消費・大量廃棄のパターンの変更と、南北間・地域間・世代間の格差をなくしていくことが必要だと考えます。このような社会を実現するために、未来の世代を担う青年自らが行動を起こしています。

数々の国際会議に青年の声を届ける



A SEED JAPANが関与した主な国際会議

◆A SEED 国際キャンペーン時代（1991 年 9 月～1992 年 7 月）

1990	10月	世界約 50 ヶ国以上の青年環境団体が参加して「A SEED 国際キャンペーン」が欧米の26ヶ国でスタート。
1992	6月	リオデジャネイロで開かれた150ヶ国以上の首脳が参加した地球サミット（国連環境開発会議）および NGOグローバルフォーラム（ブラジル）に代表を派遣。

◆A SEED JAPAN 時代（1992 年 7 月～）

1995	4月	Youth Action for APECキャンペーン発足。
1997	12月	気候変動枠組み条約第3回締約国会議（COP3）にて、メディアアピール活動を展開。
1998	1月	A SEED Europeと連携して「ウクライナ原発反対のDICEキャンペーン」を展開。
2002	8月	国連持続可能な開発会議（南アフリカ・ヨハネスブルグ）へ7名を派遣。
2007	3月	世界水フォーラム（大阪・京都・滋賀）にてアクションを実施。
2007	3月	アジア開発銀行（ADB）年次総会において、化石燃料から自然エネルギーへの転換を求めるパフォーマンスを実施。
2008	3月	Japan Youth G8 Projectと共催で「持続可能な社会のための日本青年サミット/Japan Forum Toward G8 Summit～for Sustainable society～」を開催。
2008	7月	北海道・洞爺湖で開催された洞爺湖G8サミット直前に、他のユース団体と世界青年フォーラムを開催し、政府担当者とのダイアログを実施。
2010	10月	生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）へ活動メンバー60名を派遣し、アクション、提言活動を実施「COP10重要論点フォーラム～これだけは譲れない！ユースの視点～」を開催。
2012	6月	国連持続可能な開発会議（リオ+20）へ活動メンバー3名を派遣。



社会を変える仕組みをつくる

エコ貯金宣言

11億



エコ貯金とは？

銀行口座を「健全性」や「環境・社会的な取組みをしているか」という視点で選ぶ、新しい貯金スタイル。「エコ貯金」宣言は、2012年12月までで11億円に上りました。



13,000 台の携帯電話が
ゴリラの保護へつながる

ケータイゴリラは2008年より、使わなくなった携帯電話をリサイクル・リユースし、ゴリラを守るための資金に変えるアクションを行っています。リサイクルユースされるため回収した携帯電話の数は、2013年3月までで13,000台に上りました。

年間約 1,700 人のボランティアと

11,000 人のキャンペーン参加者とともに
世界一クリーンな野外ライブをつくりあげる



ごみゼロナビゲーションでは、野外音楽フェスティバル、環境イベントを中心に、「ごみを拾う」のではなく、会場で廃棄されるごみの削減やリサイクルを「参加型」で実践するアクションを実施。今では年間20本のイベントで活動を実施しています。



A SEED JAPAN の使命

A SEED JAPAN は、環境問題の中に内在する社会的不公正の解決を目し、以下のことを踏まえ行動します。

1 環境問題を経済や社会構造そのものから見据えていきます。

私たちは、環境問題や南北問題が進行している原因が経済や社会の構造そのものにあると考え、その根本にある原因を見据えて行動します。

2 青年の立場から環境問題をわかりやすく伝えていきます。

私たちは、環境問題や社会的不公正について、それらの問題と私たちのライフスタイルが密接につながっていることを青年をはじめとする多くの人々にわかりやすく伝えていきます。

3 長期的視野を持って社会を変えていきます。

私たちは、地球の未来を危惧するメッセージを継続的に発していきます。そして、長期的な視野を持ち、現在の社会システムを変えていくための提案と行動を起こしていきます。

また、A SEED JAPAN は以下の立場を担っていかうという認識を持ち、行動します。

●未来世代である青年としての立場

私たちは、青年としての立場から未来世代の利益を訴えていきます。また、現在の社会を変革し、新しい社会を創造していくことのできる存在として、誇りを持って活動します。

●NPO（非営利組織）としての立場

私たちは、NPO の一員として、その社会的責任を認識して継続的に組織を運営していきます。そして NPO 全体が相対的に強化されるように協力していきます。

●行政・企業・NPO のパートナーシップを創造していく立場

私たちは、環境問題を解決する為には、行政・企業・NPO のそれぞれが持つ問題解決能力をお互いに理解し、連携していくべきだと考えます。私たちは行政・企業とのパートナーシップ、そして NPO 同士のパートナーシップを創造していきます。

●世界の青年と協力し合う立場

私たちは、国境を越えた環境問題に対応するためにも、また”南”の視点を十分に理解するためにも、草の根で活躍する世界の青年達と積極的に協力していきます。

目次

A SEED JAPAN の使命	4
代表の言葉	5
チーム活動報告	
ごみゼロナビゲーションチーム	6
エコ貯金プロジェクト	8
ケータイゴリラチーム	10
未来生活 now プロジェクト	12
水源 WATCH! プロジェクト	14
つながりの森を未来へプロジェクト	16
メディアCSRプロジェクト	17
2012 年度の主な実施事業	18
会員からのメッセージ	19
2012 年度全体収支決算書	20
2012 年度報道採録	21
A SEED JAPAN 組織図／ 2012 年度理事役員一覧	22
A SEED JAPAN 会員制度のご案内 A SEED JAPAN への寄付のお願い	23

代表の言葉

2012 年は「政治の年」だった、という印象を、日本の多くの青年が感じていることと思います。

私にとっての 2012 年は、「市民活動の年」。

原発再稼働、TPP 参加交渉といった政治関連の動きが話題になる度に、これらをめぐり活動する市民の動きもまた、多くのメディアに取り上げられました。

このような社会情勢のなか、2012 年度、A SEED JAPAN は 6 つのチーム・プロジェクトで活動してきました。

どのような活動を行い、どのような成果を得たのか。ぜひ本資料でご確認ください。

ネット選挙解禁をきっかけとして、2013 年度は、政党による青年層へのアプローチがこれまで以上に活発になると予想されます。私たち青年は、政治に、社会に、どんな声を伝えていくのか。

「青年の立場から環境問題をわかりやすく伝えていく」という A SEED JAPAN のミッションの遂行が、いままで以上に求められます。

東日本大震災が発生したのは、私が代表に就任する直前でした。事務所の移転や原発再稼働についての議論は、当時の私にとっては非常に重く、代表という立場をつらく感じた時期もありました。

しかし、活動すればするほど、「青年」の立場からアクションを起こしていく必要性を強く感じ、この思いが、常に活動の原動力となっていました。

私はこの 2 年間、A SEED JAPAN の代表として、そして A SEED JAPAN というチームの一員として活動できたことを、心から誇らしく思います。

支えてくださったすべてのみなさま、本当にありがとうございます。どんな時代にあっても環境問題を常に根本から見据え、解決を目指していく A SEED JAPAN のこれからの動きに、ぜひご注目ください。今後とも、変わらぬご支援・ご助力をどうぞよろしくお願いいたします。

2012 年度代表 草刈良允